

御前山 ビオトープ

ビオトープは



BIOTOP=BIOS（生き物）+TOPOS（空間）
野生生物が生息する地域のこと

「御前山ビオトープ」は御前山ダム建設に伴って水没地に生息していた希少動植物を移植した保護地域です。

目的

- 希少動植物を保護 するとともに
 - 子供たちの環境教育の場
 - 学問的な調査研究
 - 自然とのふれあいの場
 - 地域活性化資源 など
- 多面的な役割が期待されています。



御前山ダム完成予想図

移植した希少植物



フタバアオイ

山地の林の中に自生し、茎の途中で枝分かれし、ハート型の葉を二枚出す。徳川家紋草、三葉葵はこの葉を巴型に三枚並べて図案化したもの



イヌショウマ

山地の林の岸に自生する。イヌは否の意、ナガエミクリに葉と花が似て異なることからついた名前



ナガエミクリ

ため池や沼に生える多年草。花や実の形がクリのイガに似ている。



アギナシ

水田などに生える多年草。名前はアゴナシから転じたもので、若い葉がへう形で分裂しない。

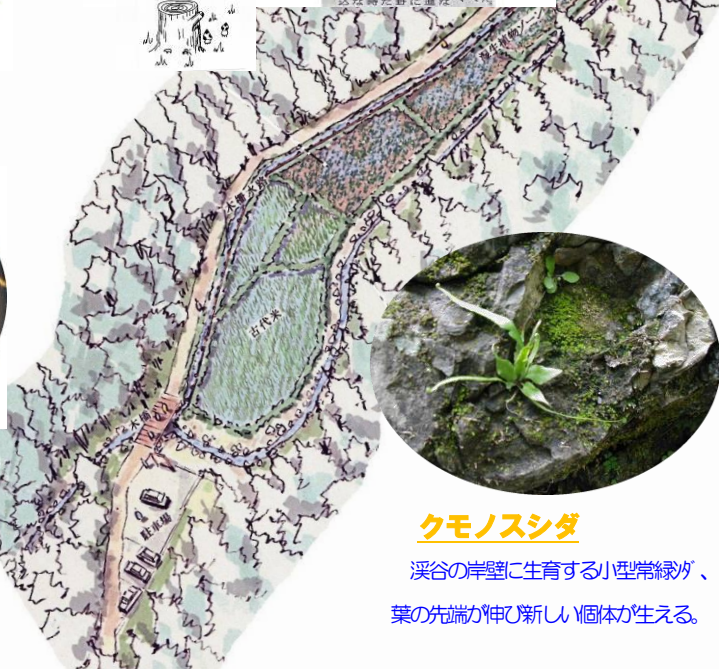


タコノアシ

水辺や湿地に生える多年草。花がタコの吸盤を思わせる形をしており、秋になると写真のように赤みを増してゆでタコのようになる。



【案内図】



クモノシダ

渓谷の岸壁に生育する小型常緑が、葉の先端が伸び新しい個体が生える。

連絡先:

御前山ダム環境センター 国安 0295-55-2946
 関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所 桑名 0292-27-7571
 NPO「美しい田園21」 清野 090-1602-9910



メール denen21@hb.tp1.jp

ホームページ <http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

最後の引越し(移植)大作戦

御前山ダム本体が完成し、もうすぐ湛水が始まります。平成16年から子供たちと取り組んできた湛水地の植物の移植活動の総仕上げ(最後の引越し大作戦)と記念植樹を実施します。



ニリンソウ



ナツメソウ



ナツメソウ



ヒメジョオン



アザミ



アザミ



ヤマアザミ



ナツメソウ



ナツメソウ



ナツメソウ

移植する山野草

御前山の自然再生に向けて

(御前山ダム環境センター)

御前山ダム建設に伴うビオトープの整備や希少植物の移植保護活動を通じて、環境の大切さを実感するとともに地域の自然生態系の課題も明らかになってきました。

ビオトープ管理から流域管理へ

耕作放棄された水田や管理されない森林には、ゴミが投棄されたり日照が届かず下草も生えないなど目に見えない生態系の崩壊が進んでいます。

そのため、地域の幅広い協力で、以下のような取り組みを進めるために、「御前山ダム環境センター」(長山安隆会長:前御前山村長)を立ち上げました。

- 1.ビオトープの管理育成
- 2.ダム周辺の自然再生(オムラサキの森等)
- 3.水源地域の環境整備(山桜の森等)

水源林の間伐促進、不耕起栽培等による水質保全



作業後:平成22年10月21日

湖に映える日本一の山桜の森を

もうすぐ湖が出現します。湖に逆さに映える「日本一の山桜の森」を育てようと、昨年から専門家によるセミナー、在来種の種子採取、御前山小学校の児童たちと一緒に実生苗の育成を始めました。



自生の山桜(昨年)

ダム直下にオオムラサキの森を

ダム周辺にはエノキが沢山自生していました。工事が完了したので食樹のエノキや紅葉、山桜などを植栽し国蝶である「オオムラサキ」の森を再生します。

また、林床にはカタクリ、ニリンソウなどのお花畑を育てます。



ダム直下のイメージ